巻頭言

『次世代に告ぐ』

一般社団法人　埼玉県設備設計事務所協会
会長　　金子和巳

私ども一般社団法人　埼玉県設備設計事務所協会も法人化２年目を迎えることとなりました。法人化によって協会運営に変化がみられるようになったと思います。

まず研修会、勉強会が参加型から自主運営型になり、会員事務所の若い技術者の参加割合が増えたことで、会員事務所の資格者養成意欲が増し、よりアクティブになってきたことです。今後も今以上に会員の質の向上に努め、仕事のできる事務所の団体であり続けるよう協会運営をはかってまいりたいと思いますので、関係各位様には、引き続き変らぬご指導ご鞭撻を改めてお願い申し上げます。

さて、今、私たちに求められているのは何でしょうか？　建築関連法規の改正から現在に至り、問題点について検討されています。中でも直接設備設計に関連する問題として、設備設計一級建築士の資格について、当初から“数”の問題が取沙汰され、その“数”が非常に少ない点について検討されています。また、同時に建築設備士の活用も見直しが図られようとしています。私たち建築設備設計・監理を専門としている者にとって、これに対向し、一人でも多くの設備設計技術者（有資格者）を輩出するべき時ではないでしょうか。それによって設計分野での独立性、専門性も維持でき、建築設計を中心とする意匠、構造、設備設計の円滑な協力関係が確立できるのだと理解しています。

今や設備設計の責任を建築設計者に全て任せるのではなく、設備設計の責任は設備設計者に責任分担をし、建築設計者の負担軽減を図るべきだと考えます。ここで次世代を担う若い技術者には、自身の勉学のため、より建築設計を理解し設備設計を意匠、構造設計に活かすため建築設計資格者となるよう挑戦し続けることが求められています。また、専門家として職業人の自覚を強く持つことを希望します。

最後に、日頃より、ご支援、ご指導をいただいております行政、関連団体、賛助会、会員の皆々様に心より御礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。